

川と池を掘るといった手を加えることで、植生やそこに生きる昆虫や動物の様子が変わっていくのを直接目にするのができたのは興味深い体験だった。これからも何か少しずつ変わっていくのだろうが、それをできる範囲で記録しておきたくなった。そのためにはベースになる現状の地図が必要になる。それもどこにどのような木が生えているのかなど細かな情報がのっている地図があると良い。当然、それは自分でつくらなければならぬ。

敷地のことでわかっているのは、土地を購入するときにもらった測量図で敷地の四辺の距離と、建築確認申請に記載した建物の位置と大きさだけである。そこから木の一本一本の位置を調べて地図に書き込んでいく必要がある。いったい敷地に何本の木があるものか検討もつかない。それでも、調べたいという気持ちはかなり強かった。自分の敷地にどのような木が生えているのかも知らないでいるのは、何か情けない気がした。木の種類が細かくわかっていると、またこの土地の見え方もきつと変わってくると思われた。

さて、どこから手をつけようか。まずは、地図を書き込むおおよそ畳半分の大さきの紙を用意し敷地の形と建物を描いてみた。次に、建物から近い比較的大きな木を目印として地図に落とすことにした。建物の端から木の方向と距離を測ってそれを地図に書き写すことを繰り返せば、いつかは地図が完成する。木の方向はスマホの方位磁石で北から何度と測ることができそうだ。問題は距離だ。ゴルフで使うデジタル機器でピンまでの距離とか障害になる木の高さなどが測れるものがありそれを使うことにした。ゴルフはまったくやらないのだが、仕事で建物の位置や高さを計る必要があったときに購入したものが役にたった。建物の両端から見える範囲の木を測ってはメモをして、それを地図に書き写す作業をしていたら、どうも実際の木の位置と地図上の木の位置が明らかに違うところが出てきた。方位磁石は水平に構えないと正確に方角を示さないの、で何度か同じ場所を計るとその都度ちよつとずつ違ってくる。これではだめだ。次に考えたのは、建物の両隅から木までの距離を測って、それを地図にコンパスで円で描くと、その二つの円が交わるところが木の位置になる。そうやって建物のまわりに目印になる木を増やしていけば、さらにその目印からの距離でその他の木の位置を地図に落とすことができる。これもやっているうちに変な場所に木があることになってきた。ゴルフ用のデジタル機器の精度に疑問を持ち同じ場所を何度か測ってみると都度、変な値が出てしまう。

ここはデジタルに頼らずアナログに行こうと決めて、伊能忠敬方式を試すことにした。伊能忠敬は距離を歩数で何歩あるかで測ったという。これなら怪しい道具を使わなくて良い。まず一步の歩幅を測って、そのあと十歩歩いて実際の距離を測ってみる。たったそれだけでもびつたり同じ値はでない。伊能達は同じ歩幅で歩く練習を何度か何度もしたそうだが私にはできるとは思えない。いったいどうして伊能忠敬は、あんなに正確な日本地図をつくることのできたのか。ただただ敬服するだけだった。



最初からそうすればよかったのだが、ホームセンターに直行して五十メートルまで測れる巻き尺を買ってきた。これで二方向から木までの距離を測り地図に落としていくことにした。しかし、これもやってみると意外と大変なことがわかった。何も障害物がなければ簡単なんだが、木や草が巻き尺をまっすぐに伸ばすのを邪魔するのだ。その都度、後戻りしてできるだけまっすぐに伸ばせるルートを探して計ることになる。それでも、巻き尺は嘘をつかないという信頼感で作業は進んだ。それをまとめて地図に写そうとするとコンパスで描いた円だらけになってどの交点がプロットしたい木の位置なのかわからなくなってしまう紙はどんどん黒くなるばかり。これも最初からそうすればよかったのだが、パソコンの作図ソフトで作業することに変更した。

パソコンの作図ソフトを使うと円の補助線を色分けすることもできるし、補助線と木の位置の印を別の紙(レイヤー)に描いて重ねてみることもできるのだ。作業が格段にしやすくなった。木の位置を地図に落とす作業がかなり進んだ頃、東側から測っていた木と西側から測っていた木が、同じ木なのにずれていることがわかった。どの木を測り間違ったのか、測った誤差が塵も積もって大きくなってしまったのか。実際の木の見え方も参考にしながらチェックして修正を繰り返す作業にずいぶん時間をとってしまった。

どうにかこうにか木の位置を地図に落とし終わってからがまた大変だった。その木が何の木か一本一本調べなければならぬ。そのような知識はまったく無いも同然だったが、樹木図鑑を頼りに調べることにした。これにはずいぶん時間がかかった。なにせ、木の位置を測るのに都合が良いのは、まだ草丈が高くない雪解けの時期なのだが、その時には木に葉が無いのだ。図鑑には木の幹の肌の違いも書かれているが、とてもそれだけではわからない。目につく大きな木は四季をつうじてよく見ていたので、例えばハンノキは特徴的な雌花と雄花で特定できていた。また、ヤチダモはゴツゴツとした大きな冬芽でわかった。春一番にまだ葉が出る前に雄花が咲くバッコヤナギも大ぶりの花から区別がついた。ただ、それ以外の木々についてはせいぜい、紅葉する木があるな程度の認識で、葉の形や、花や実の姿について詳しく観察することがなかったのだ。なので、木の種類を特定するのは長期戦と構えることにした。

若葉が出る頃になると忙しくなる。原寸大の葉の写真で検索できる樹木図鑑を手に入れてそこらの木の葉と見比べてみたが、それでも「これだ」という確証が持てない。この図鑑は全国の樹木を対象にしているので、ここ北国の樹木まで細かくカバーされていないかったのだ。やはり「北海道」と明記した本でなくてはならない。それでも本に掲載されている写真から、これと同じものだと見分けるのは難しかった。むしろ一九二〇年からほぼ十年がかりで刊行された手書きの絵による樹木図鑑の方が、特徴を捉えて描かれている分、同定の手がかりとしては随分助けられた。そこには、木の様々な部位が季節を超えて描かれており、一枚の絵にその木の全てを捉えようとする意思が感じられた。



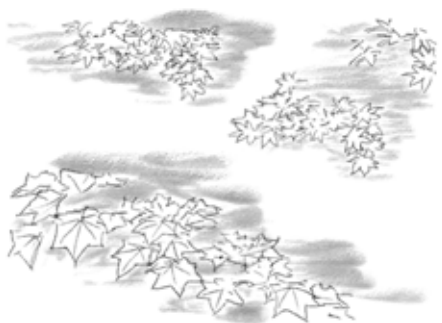
図鑑と見比べているうちに特徴的な葉の木は見分けがつくようになった。例えばミズナラとコナラ。どちらも楕円形で根元が少し細長くなっており、縁が大きくギザギザしていて他の木の葉と違いが良くわかる。やっかいだったのはミズナラとコナラの見分け方だった。最初、小さな葉の方がコナラと思っていたのだが、それは個体差で葉の根元に軸があるかどうかが決め手のようだ。ミズナラは軸がなくて枝からすぐ葉のギザギザが始まる。針葉樹も常緑だったのでトドマツかエゾマツということにした。その見分けは木肌の色と肌合いが決め手と考えた。そうやって見分けるポイントを自分のものにすると思える。

手のひら型の葉も他の葉とは見分けやすいのだが、それが何の木か同定するのは結構手間取った。手のひら型の葉はおおむねカエデ科だと思うのだが、それには何々モミジというのと何々カエデというのがいろいろあるのだ。モミジが指の股の切れ込みが深く、カエデは手のひらが立派と思っていると、指の切れ込みが深いハウチワカエデもあつたりする。それに個体差もありそうなので迷ってしまう。そもそも私には植物を見分ける観察力が無いのかとも思ってしまうが、日頃あまり注意して木や花を見てこなかったことで植物目が未熟なのだということにして、ひたすら観るように努めた。その結果、私なりに春先に咲く花が濃い赤色で葉が深く切れ込んでいるのをヤマモミジ、花が緑色で葉の切れ込みが浅く手のひらが立派なのをイタヤカエデとしてみた。中には微妙に違いそうなものもあるのだが、それはあとでもっと植物目が養われてから見分けることにした。

そんな感じで、とりあえず全樹木の同定が完了して図面に記録し終えたのが六月の頭だった。もつとじつくり一年を通して、紅葉の様子や実のなり方、木肌の様子など観察してから決めれば良いのだが、それは今後の楽しみとして一旦の樹木配置図の完成とした。いろいろ間違えはあると思うが、その時点で確認された樹木は三十一種類、三百二十三本。

最も本数が多かったのはトドマツで四十八本。これは、造成当時のことを知っているご近所さんの話だと造成に伴って植えられたもので、確かに道路ぎわに並木のように並んでいる。それに太い。次に多かったのがカワヤナギで三十八本。これは湿気の多いこの土地に適した樹種で造成後に生えてきたものと思われる。ヤナギもいろいろな種類があつて同定が難しかったが、その他にイヌコリヤナギ、バッコヤナギなどが確認できた。次に多かったのがコナラ、ミズナラとクリ。これらは、おそらくエゾリスが植樹したものだだろう。特にクリは日頃エゾリスが良く行き来する姿を見るあたりに点々と生えている。

大木に育っているのはハンノキとヤチダモ。特にヤチダモは家の窓の正面に堂々と立っている。春先に葉が出てくるのが一番遅いのだが葉の茂り方は立派だ。樹木調べでわかったのだが、そのヤチダモの大木から南の方角に無数のヤチダモの小さな木が生えて小さな森ようになっていた。冬の間の北風で種を飛ばして子孫を残しているのだった。





凡例

01) トドマツ (トト)	●	26) シナノキ (シナ)	●
02) クリ (クリ)	●	27) ヤマグル (ヤマ)	●
03) シラカバ (シラ)	●	28) アキウシ (アキ)	●
04) ヤマキスミ (ヤマ)	●	30) ハシ (ハシ)	●
05) イタヤカシ (イタ)	●	31) ノボク (ノボ)	●
06) ハウチワカシ (ハウ)	●	32) ツツジ (ツツ)	●
07) ハシノキ (ハシ)	●	33) ストローブツ (スト)	●
08) ヤチヂモ (ヤチ)	●	34) コシアツク (コシ)	●
09) ハハヒレ (ハハ)	●	35)	○
10) ノコシ (ノコ)	●	36)	○
11) ヒメキ (ヒメ)	●	37)	○
12) カウヤナギ (カウ)	●		
13) イヌコリヤナギ (イヌ)	●		
14) ハクコヤナギ (ハク)	●		
15) キノエヤナギ (キノ)	●		
16) コブシ (コブ)	●	0A) ヤシキ (ヤシ)	●
17) スズ (スズ)	●	0B) フシゴケ (フシ)	●
18) ツリハ (ツリ)	●	0C) カラス (カラス)	●
19) ヤマザクラ (ヤマ)	●	0D) フルヘリー (フル)	●
20) エリヤマザクラ (エリ)	●		
21) オウキ (オウ)	●		
22) トチノキ (トチ)	●		
23) コナリ (コナ)	●		
24) ヒメツバキ (ヒメ)	●		
25) イチイ (イチ)	●		

